令和２（2020）年 11 月９日（月）16 時 30 分から 17 時 30 分
@都庁第二本庁舎 10 階　207・208 会議室

第６回東京高速道路（ＫＫ線）の既存施設のあり方検討会（議事要旨）

【各委員からの主なご意見】

＜清水委員＞

○　どうやって伝えていくかということと、世の中に出ていったときに出てくるような質問などに対してきちんと検討して答えていくことが重要である。

＜出口座長＞

○　今後の進め方について教えてほしい。

➡　**＜事務局＞**

○　事務局では、今回の提言書を踏まえて、この中には整備・誘導の考え方があるが、そういったものを都の考え方として、計画の中に位置付けて、それについて都民に公表してパブリックコメントで意見をもらったあと、都としての方針として作る予定である。

○　具体化に向けた留意事項については、しっかりと考えていかなくてはいけない部分と認識している。法制度上の担保や事業スキームについては、都として方針に欠けるところは書いて示していきたいと考えている。

＜下村委員＞

○　短い時間の中で、調査をされて、我々のわがままな発言にも応えて、うまくまとめていただいたと思う。

○　特に表紙のデザインが気に入っている。これを上手に使うといい。裏の Tokyo Sky Corridor のところに「表紙のデザインは、お堀や高速道路という歴史を経て」と説明がある。この色がそれを示していること（色のコンセプト）が分かったほうがよい。

○　概要版３ページ（目指すべき将来像）の色がとても紛らわしい。提言書本編２５ページと合わせていただき、このデザインがこういう歴史をちゃんと継承していくんだという意思を示していることがはっきり分かるように説明することにより、このデザインがシンボル化すると思う。

＜伊藤委員＞

○　細かいところも反映していただき、うまくまとまって分かりやすくなったと思う。

○　いろいろなところで実際に行われている取組みであることと同時に、海外のどの事例よりも魅力的な可能性に満ちたということをうまく伝えて欲しい。

○　時期的にも偶然だが、感染症拡大や、日本においては人口減少にさしかかっているとか、価値観が新しい価値観にちょうど転換する機会でもあるので、単に他の事例をまね

していることだけではなくて、東京都として新しい価値観に基づいて新しい、より魅力的な空間を創り出していくということが伝わるといい。

➡ **＜出口座長＞**

○ 国際競争の中で都市の魅力を創り出していくときに、このＫＫ線がこれから都の資産、あるいは関係者の資産として魅力を発揮していくことを都民の人たちと共有していきたい、それが最初に出てこないといけない。その意味を共有しておきたいということだと思う。

＜髙井委員＞

○ 表紙にこのデザインの意味を分かるように書いたらいい。
○ 東京が、これまではずっと新しいものを貪欲に追求してきたが、今回のこのプロジェクトではスクラップ・アンド・ビルドではなくて、都市の資産を再生して使うという発想に基づいて、途中から進んできた。そういう既存のものを大事にしながらも新しいものを取り入れていくという、東京のこれからの姿勢を示すような施設になってほしいという思いがだんだん強くなってきた検討会であった。
○ スカイコリドーは、ＫＫ線のこれまでの６０年間を超える２２世紀も存在するものになる可能性もあると思う。価値を更新して良いものにしていくためには、ステークホルダー（所有者、管理・運営者など）が重要になる。
○ 官民が一体となって新しい公共の姿を東京から日本中、あるいは世界中に示すようなことになれば非常にありがたい、うれしいと思った。
○ 今日の状況下、観光が不要不急と言われてしまい、外国人の方はほとんど入ってこない状況になった。不急だが不要ではないと思う。
○ （スカイコリドーが）２１世紀から２２世紀にかけて、国内外の方が交流する施設となることを期待している。

＜五十嵐委員＞

○ 髙井先生からの「新しい公共」という話があったが、土地の地主という観点から、また従来の公共的な使い方といった発言が多かった気がする。今後、いろいろなスキーム、土地を施設会社に貸していくときにそういうところ（検討会の議論）を十分考えながら、運営会社である東京高速道路のほうと共有していきたい。
○ 先生方の議論をしっかりと頭に入れて、提言の全てが実現できるかは分からないが、これを尊重してやっていきたい。

＜吉野委員＞

○ 事務局と一緒にこの資料を作成した。先生方にはいろいろとアドバイス、詳細な資料チェックなど、本当に感謝している。

○ この「空中回廊の創造に向けて」と表紙の裏面、最後の３行に「都心の貴重な高架空間であり、魅力的な街並みを眺められる動線が、新たな東京のシンボルとなる期待を込めています」と書かれているが、まさに我々、まちづくりを担当する立場としても、この空間が新たな東京のシンボルとなるような、まちづくりを進めていかないといけないと思っている。

＜国交省都市局＞

○ 道路空間の新たな機能という点では、ＫＫ線の再構築は、居心地がよく、歩きたくなるまちなかの形成につながり、都市局が進めてきた事業の方向性とも一致している。引き続き相談に乗りながら魅力的な都市づくりという観点で応援していきたい。

＜田村委員＞

○ この検討会は、交通側での検討（首都高都心環状線の交通機能確保に関する検討会）を受けて立ち上げられた検討会だと認識している。当時、私はこの交通機能の検討に携わっている中で、ＫＫ線の自動車専用の道路としての役割が大きく低下したあと、どのようにするのか非常に心配したが、検討会にこのように方向性をとりまとめていただき、感謝している。

○ 実現に向けたバトンをまた行政側で引き継ぐことになる。首都高の広域交通機能を踏まえたＫＫ線の端部のあり方については東京都や地元区の方々、さらには首都高とよく連携しながら検討を進めていきたい。

○ 実現に向けて、都民の共感が大事だと思うので、ＰＲ、広報をしっかりと引き続きお願いしたい。

＜出口座長＞

○ この議論を通じて新しい東京の、あるいは、もしかしたら日本が世界に誇る新しいモデルが出来上がってくるのではないかという期待を込めて皆さんからのご発言をいただいたと思う。ぜひこれを受け止めて東京都では新しい計画、構想づくりに着手していただければと思う。

○ 前の東京オリンピックに先立つ形でＫＫ線は整備され、６０年近い歳月、この東京の発展を支えてきた施設。それも、公共施設だけではなくて、民間と公共との力を生かした施設ということ。これはまさに、全国的に見ても非常に珍しい仕組みで出来上がっている施設。この仕組みと、そしてこのＫＫ線の施設、ハード等をうまく生かして次の時代の東京の新しい資産にしていただきたいというのが、この検討会の最終的な提言の考え方だと思う。

○ 今後は、この考え方に基づき、ぜひこれを実現していくための制度的な側面、事業的な側面、そして、これにうまく参加型で取り組んでいただけるような仕組みづくり、ある

いはいろいろな方々の力をお借りしながらこれに取り組んでいくような仕組みづくりも、ぜひご検討いただきたいと思う。

○　この検討を進めている最中に新型コロナウイルス感染症の厳しい状況になり、改めて都市とは何か、都市のあり方とは何か、あるいは本当に快適な都市空間とは何かということを我々は考えなければいけない時期を経験し、その中で、このＫＫ線の将来のあり方を打ち出すことができた。これは非常にいい貴重な機会であると思う。

○　もしかしたらこれが重なったのは偶然だったかもしれない。ただ、またこれが実現した暁にはおそらく、この偶然が偶然ではなく必然になっていくのかなとも思っている。皆さんと一緒にこれが実現した姿を近い将来、見ることを楽しみにしていきたいと思う。

以上